

講義科目名称： 居住福祉

授業コード： 20169

英文科目名称： Social Work in Housing Support

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	選択必修
担当教員			
井上 由起子			
添付ファイル			

講義概要	教員が作成したケース、院生の提出した事前課題、全国の様々な取り組みなどを題材にディスカッションを行い、自身の支援や態度に引き寄せて居住と福祉の関係について振り返り、実践と理論の間を埋めていきます。
各回の進行予定	<p>第1回 日本の住宅政策と福祉政策の接点 住宅政策と居住保障</p> <p>第2回 民間賃貸住宅における居住支援 ケース検討①、支援プロセス、困窮者支援と高齢者支援の違い</p> <p>第3回 居住支援の体制整備 市町村の包括的支援体制と居住支援、不動産業界との連携、居住支援協議会、居住支援法人</p> <p>第4回 住宅系サービス（高齢者住宅と居住サポート住宅） 住宅とケアの分離、住宅スタッフの機能、住宅系サービスにおけるSW機能</p> <p>第5回 入所系施設① 個室ユニットへの道程、シフトと暮らし、小規模化とSECTモデル</p> <p>第6回 入所系施設② プロポーザルコンペ体験</p> <p>第7回 地域居住① 公的団地、見守りは誰のためか、身元保証サービスと地域福祉</p> <p>第8回 地域居住② 総合事業、居場所、空き家対策、共感と倫理、地域共生社会</p>
講義のねらいと到達目標	<p>【講義のねらい】 世帯の高齢化と単身化、障害者の地域移行、生活困窮者の増加、入所施設の構造的課題、居住の市場化などを背景に、住まいが不安定な人々が増大している。住宅確保要配慮者の居住支援のすすめ方、市町村における包括的支援体制と居住支援の関係、暮らしを重視した住宅系サービスや施設系サービスのあり方、地域居住を促進する場と参加の仕組みについて学び、地域共生社会に資する居住の安定化に必要な知識と態度を獲得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の住宅政策についての基礎知識を修得する。 ・住宅確保要配慮者の居住支援について理解する。 ・公的賃貸住宅団地と福祉の連携について理解する。 ・住宅系サービスや施設系サービスの仕組みと課題を理解する。 ・地域共生社会に資する地域居住のための場と人と協働のあり方を理解する。
指定教科書(テキスト)	特に定めない
参考文献・関連URL等	授業のなかで適宜紹介する。
出欠確認方法	教員による目視ならびにリアクションペーパーにて確認する。3回以上欠席した者の単位認定はできない。
成績評価の方法	評価は到達目標の達成状況を踏まえて行う。リアクションペーパー内容（40点）、事前課題（20点）、授業への参加姿勢（40点）を総合して評価する。
成績評価基準の内容	60点以上を可とし、60点未満の場合は不可とする。
事前・事後学習のためのアドバイス	住まいの視点から福祉を捉え直すことを行っていきます。大きく動いている分野のため、最新の内容にアップデートして進めます。専門職である前に、一人の市民あるいは住民として、受講いただけると嬉しいです。 ※初回は事前課題はありません。
他の科目との関連、教育課程の中での位置づけ、キーワード	
ベンチマーク	この科目で獲得を目指すディプロマ・ポリシーについて次のように優先順位を位置づけています。 1. ア 福祉実践とその現場の創造的な発展に必要な基本的な知識を修得した者 2. イ 理論と実践の両面にわたる能力を備えている者 3. ウ 価値を基盤とした職業的倫理を深く理解した実践的な専門的職業人である者